十六日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵送料 金十五錢
□一部賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□線帳欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓増
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五五五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯印刷人 森合英

たらちねの袖もち
撫でゝ我が故に泣
きし心を忘られえ
ぬかも（防人の歌）

閼伽井嵐

理論を尊重せよ

（二）　杏仁生

高度國防國家の建設といふ事は一面は個人主義的經濟を有機的一体としての國民經濟に基礎を置く經濟に再編成する事である、而してこの理解の下に國民諸組織を如何なる狀態に持つて行くかといふ事に就いての建設的現實的な理論を輕視することは絕對に許されぬ事であると思ふ。何故なら指導原理を持たない實行は行きあたりばつたりの盲目的なものであつてそれこそ建設を阻害するものであるからである。この意味で「理論よりも實行」といふ事がいはれるが革新的實踐に當つては斷じて如何なるものに於てもその中に含まるべき理論を輕視する事は出來ぬ。

理論といひ指導原理といふもそれは自由主義的な教育が生んだ徒らなる批判的精神に根ざした所の過般の議會人に於けるが如き形式的觀念的なものをいふのではなくして歷史的現實と國家の生命力に立脚した確乎たる理論系体を指すのである。

理論輕視の弊害は中小商工業問題に於いてしば〲之を見る。指導者達は漫然たる維持育成論（如何に弊害ありしことか）に迷はされず勇敢に問題を正しき角度から分析して見るだけの謙虚な科學的態度が要請されなければならない。

原稿募集

本紙第二面の各種原稿を募集する奮つて御投稿下さい

踏破六百里

……櫛田彦之進氏による……

岩崎敏夫

（十三）

をかしな事に郷里に歸つてからといふものあれ程勞苦を共にした吉岩に恐ろしくてどうしても乘れなくなつたとであつた。この心境の變化には我ながら不思議に思ふ位であつたこの馬も老齡で昨年遂に亡くなり、今年はさゝやかな供養をしたが騎乘の時は十四歲であつた。何れ供養碑を立てたいものと思つてゐる。

物質上の援助は受けないと始めから斷つてゐても、無理に餞別をくれたりする人もありさういふ時は皆、神社佛閣に捧げ、道に遊ぶ子供に與へることにした。全期間を通じて雨は相當降つたが、騎乘期間中は幸に天候にめぐまれ、雨らしい雨にあつたのは一日だけであつた、聯隊區司令部在鄕軍人會其他諸團体及び個人の示されたる御厚志は銘記して永く忘れることは出來ない

昭和十四年十二月書

櫛田彦之進氏は現在入遠野村の收入役をやつて居る。去る九日にひよつこりと本社にやつて來た。その晩筆者の岩崎敏夫君と三人が櫛田氏の旅舍で歡談の數刻を過ごしたがなか〲の快男子だつた。快男子といふ意味はいふことに飾り氣が微塵もない。天眞爛漫といふ所だ。しかもその收入役としての話なんかは規矩準繩を以て仕事をやつてゐる人から見ると正に肝をつぶすやうな思ひ切つたことをやつてのけてゐる。即ち「私は收入役だが算盤はやらない」といふのだ。算盤をやらない收入役なんて凡そ常識では考へられないだらう。その時〲の徵稅の日計が合つてゐるのゐないのと心配するだけ馬鹿化てゐる。要するに最後の締め括りが出來れば好いわけである。といふのである　（高木）

映畫評

〃海を渡る祭神〃

城木伊佐緒

三村申太郎の創作脚本を稻垣浪が演出したもので、いゝ意味での娛樂映畫であり、近頃大いに樂しめる映畫である。

ある港町の旅籠屋が舞台で、年に一度の祭禮を當てこんで諸國から大勢の祭り商人が無法な馬藝人の一團に人氣をさらはれる話で、その中に宿屋の女中おうた（市川春代）と居合拔きの浪人（戸山城太郎）の戀愛を織り込んだテーマである。

市川春代が醉つて馬藝人の親方と賭け事をして啖呵を切る所があるがその柄でない。

この映畫は所々朦朧とした所があり、例へば、賭け事の結末が何か突飛の出來事のために、反つて商人達に人氣が回復し、おうたの身体も無事かと思ふとそうでなくとの話も結末がなく、又浪人が得体の知れないヤクザ者の一團に連れて行かれるが、これもやはり要領を得ない。馬藝人の一味を斬つた浪人を園ふために好意的に連れて行くのか、或は馬藝人と連絡して浪人を拉して去るのか獨り合點である。

「あの男は恐しい男だよ」と云ふ宿屋の婆やに「あの男は殺れてたまるもんか」とつぶやくやうに謎めいた事を云はせてゐるので或程度推量出來るが、これでは甚だ心細い。見た後で雜然とした感じが殘らないでもない。

反つて前半のいろ〲の挿話にユーモアがある、志村喬（宴の油賣り）上田吉次郎（手品の立齊坊）團德磨、猿廻し）遠由滿（宿の亭主）いづれも好演技佳作。

（附記）〃海を渡る祭神〃を當てに觀に行つたのに既に上映中で（相當早く出掛けて行つたが）どうでもいゝ〃結婚の理想〃などくど〲と御丁寧に見せられた。映畫館側も、もう少し神經を働かせて上映順序を考慮して貰ひたい。

「詩」

轍

（平）佳子

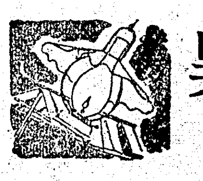
轍だ……
グツト凝視した頭の中に
萬歲の錯覺が滲む
歡送の旗波は微笑で征つたあの人
滑べり行つた車には日の丸が、
朝風に音をたてゝゐた

轍だ…… ……
グツトみかへした瞳に
血のやうに弔旗のはためきが滲む
征つて十月……
形もなく父に抱かれてかへり來た
あの人のからだよ
ジツト土を手に摑めば
冷たい感觸に落果てる

荻の芽（自由律短歌）

眞野目智雄

衣替ポケツトの溜り屑落し
すて難い愛着の手先に動く
大きくなれ大きくなれ
單純な言葉に自分の途をみる
かきつばた一枝岐れ路にあり
山の朝は未だ早い



異人劍法 【57】

（[illegible]上演上映）

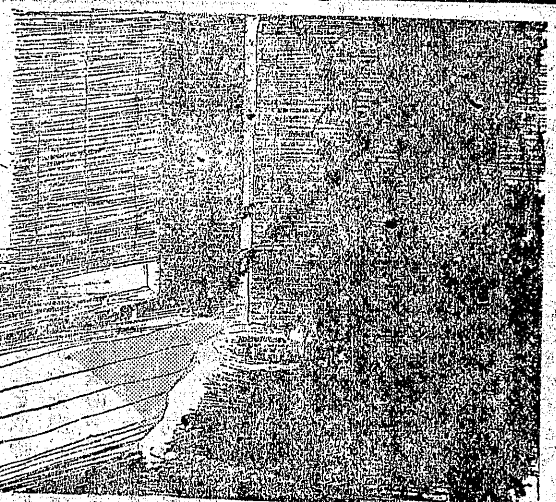
車谷弘
下山望東畫

渦潮（八）

あんなに堅い約束にしたのに巳之助はとう〲來なかつた。

時刻が移るにつれて小梅はまたすつかりいつもの飲んだくれになつてゐた。いや、いつもより醉が廻つて、馬鹿々々しくはしやぐのだ。

ヤケ酒とひと目で知れる、その亂暴な飲み方を、けつく岩太郎はいゝ事にして、うつちやらかしておくつもりなのか、ニヤ〲笑ひながら、次第に正體もなく醉ひしれてゆく小梅のしどけないさまを眺めてゐる。



小梅は、やけに酒を呻る。呻つては他愛もなくはしやぐのだ。その擧句の果は、くた〲に醉ひつぶれて、今は見榮も恥も忘れた態だ。

「小梅ッ」

と、岩太郎は持ち構へたやうに、小梅の耳に口を寄せて、

「手前の好きな男といふなア、いつたい誰だ話によつちやア俺も大浦の岩太郎、ひと肌もふた肌も脱ぎもしようがおい小梅、云へ、俺が仇をとつてやる」

『お、お前さんに、齒がたつものか』

『冗談いつちやアいけねえ。大浦の一家にたてつく奴が、この界隈に一人だつてゐるものか』

せゝら笑ふ岩太郎に小梅はからみつくやうな口調で、

『ところがひとり、たつたひとりゐるんだよ

『なんだと……』

『いくらお前さんが威張つたつて妾のこの黑眼が、ちやんと見てたんだから仕樣がない。ポン〲威勢のいゝ啖呵をきられてお前さん達ア、手も足も出せなかつたぢやアないか』

『えつ、ちやアあの、いつかの水晶商人…』

キツと唇をかむ岩太郎に、小梅はまるで氣がつかないで、

『あれが、何で商人なものか。お前さん達ア盲目だよ』

『さうか、手前の好きな男といふなア、あの水晶屋だつたのか畜生ッ』

『商人ちやアないつたら……ありやア狼烟の巳之助といふ甲州勝沼一家のいゝお兄いさんだ』

『ふうむ、さうか』

と岩太郎はうなつて

『で、小梅、あいつア今何處にゐるんだ、手前の怨みやア晴してやるから、云へ、さアハツキリと云つて聞かせろつ』

膝の上でゆすぶられて、

『蓮臺寺さ、蓮臺寺にお袋の家があるんだ、お袋と、も一人何だか知らないが、綺麗な女とゐるんだよ。あの女とくらべたら妾なんかの、ふられるなア無理もないさ、あゝ厭だ〲、親分酒を……』

『今、やるから靜かにしねえか』

『……　……』

力も拔け、知覺も失ひ、小梅の意識は朦朧として夢の中へ消えてゆくのだ。

何を訊かれ、何を答へたかそんな覺えはまるで無いのである。

膝の上に髮をこはして醉ひつぶれた小梅の寢顏を、岩太郎はぢつと見つめて、

『やつぱり女だ、ヤケ酒に正體を失つて、何もかもしやべつちまやアがつた』

森閑とした離れ座敷の、行燈の灯が、その時夜ふけの風にふつと消えた。

小名濱唯一の
味の店
おでん
小料理
御會食御商談に
御利用を……
味の店 寶來

土木建築
鐵道
船舶仲仕
三崎組
太田勝康
事務所 小名濱町日素前
電話五〇番

おでん
たつた揚
やきとり
一平
平市二丁目

おでんとヤキトリ
田町末廣トナリ
一柳

工員募集
一、求人者
福島縣石城郡小名濱町
日本水素工業株式會社小名濱工場
二、應募資格及人員
年令十五才以上の男子 一〇〇名
右優遇採用す
三、寄宿舍其ノ他福利施設完備
四、申込方法 履歷書一通提出ノコト
五、申込場所
平市田町
平國民職業指導所

度量衡
モノサシ・マス・ハカリ
計量器
體溫計・寒暖計
販賣所
資生堂
小名濱町
電一四七番

◇和文、歐文、タイプライター◇最新事務用品類◇文房具一式◇製圖並に測量用品◇謄寫板並に附屬品
東邦タイプライター代理店
東邦タイピスト養成所
藤森事務用器商會
平市田町銀座街 電二九六番
仙臺振替五一〇番

酒 [illegible] で

三笠燒
色羊羹
味自慢
風味萬點
モナカ屋がお茶受御土産として始めました、どうぞ最中と同樣御贔負を願ひます
平驛前中央通
米屋最中店

口腔外科
齒科一般
森合齒科醫院
院長 森合芳男
櫛田町 電話七一番

▲男女車掌募集
平市四丁目
鈴木自動車部
電話二一七番

看護婦數名募集
醫學博士 高柳博明
高柳醫院
平驛前 電三三六

漢方貼り藥
濕布で名藥
生公華
肋膜、氣管支關節、神經痛、肺炎、ロイマチス、扁桃腺炎、ぢ疾に
二圓五十錢 四圓 八圓
專賣店 平市五丁目角
山野邊藥局

債券、公債、両替、金融
多田井質店
平市大工町 電話五九一番

久
和洋銅鐵、金物問屋
釜屋商店
電九・九九

眼科專門
眼鏡檢定
重田眼科醫院
平驛前

防空暗幕
●設計と施工●
天幕・シート
防水マント
カーテン・敷物・防水加工
製作販賣
敷島屋商店
平市六丁目六 電呼四八五

フタバ磁氣療院
平市中町（公会堂通り）
フタバ印刷所内
電話一九三番

萬年筆は專門店へ
事務に!!!
進學に!!!
御祝に!!!
㊣2.00以上

岡萬年筆專門店
平市中央通り

女車掌募集
未經驗者を求む
〔經驗者も可・本人御來談乞ふ〕
三井自動車商會
平市二丁目 電話685番

巴式・長洲風呂
風呂釜
大谷建材店
平市紺屋町
電三六六番

高級林檎酒
ミユキ
醸造元 青森縣弘前市 株式會社 御幸商會
福島茨城販賣元 石井德重商店
久ノ濱町 電話三二番

贈つても
貰つても
喜ばれる
セトモノ
ガラス器
瓶、箸類
等の御用命は
藤屋のセトモノ
驛前通り
藤屋セトモノ店
電話（呼）六一六番

尊い汗の努力
初秋蠶良好に成育

石城地方の初秋蠶は早い處でボツ〳〵上蔟が始まり永戸、川前地方は廿四、五日頃出廻るものと豫想されてゐる、收繭豫想數量二萬五千貫見當で春蠶の霜害に次ぐ過般の水害で管內養蠶家は尠なからぬ打撃を受けたが平蠶業取締所の指導と養蠶家各自の災害を克服する努力に依つて被害も三割三分程度に止め初秋蠶の飼育狀況は極めて良好である

晩秋蠶は三萬九千貫の收繭を豫想されてゐるが天候恢復次第桑葉の增產を圖り春蠶と初秋蠶の被害を幾分でも緩和しやうと復興に努力を拂つてゐる

家屋稅調査員
九月五日全國一齊選擧
選擧違反に警告

家屋稅調査委員選擧は九月五日全國一齊に各市町村で行なはれるが平稅務署管內の定員は平市及石城郡を通じ十五名で、時局柄選擧に當つて惡質な違反行爲のないやう次の如く注意を促してゐる

（一）當選を得又は得しめ若くは得しめざる目的を以て選擧人又は選擧運動者に對し金錢物品其の他の財產上の利益若は公私の職務の供與を爲し、饗應接待を爲し又は其等の申込若は約束を爲したる者及以上の行爲に關し周旋又は勸誘を爲したる者

（二）以上の供與若は饗應接待を受け若は要求し又は其等の申込を承諾したる者及其等の行爲に關し周旋又勸誘を爲した者

（三）選擧に關し投票を得又は得しめ若くは得しめざる目的を以て戶別訪問を爲し又は連續して個々の選擧人に面接し若くは電話に依り選擧運動を爲したる者は懲役又は罰金に處すると云ふ規定がある。選擧肅正と云ふ言葉も今日では新しい言葉ではない、況んや現下の時局に於ては間違つた考へを起す人、間違つたことをする人は絕無であらうとは思ふのであるが第一回の家屋賃貸價格の調査に當つては特に立派な態度で選擧を行ひ一億一心の誠を表現することを希ふものである

空箱献金督勵
煙草屋さん接客で自肅

平專賣所では昨十五日午後一時から平市二丁目谷口樓に管內一市五ケ村（平、神谷、草野、高久、豐間）の小賣人が參集、煙草小賣人座談會を開き先づ空箱交換は暴利行爲取締規則による抱合せ行爲でない旨專賣所側から注意した外店頭のウエンドーの整理やその利用法並に豆債券の發賣などについて懇談したのち引續いて最近小賣人の態度が煙草不足勝ちなのに付け込んで橫柄になつた傾向あるので今後はお客に接する態度を自肅するやう注意終つて空箱蒐集を強調今年度目標一萬貫（二千圓）到達に邁進すべく申合せたのち百五十小賣人中次の優良十五小賣人を表彰した

【平市】藤倉うめ、齊藤正雄、須藤スミノ、佐藤正次郎、仲野伊重、田中美福、矢部カネヨ、阿部助次郎、金成榮子、鈴木コマ、渡邊ギン、小野トヨメ【神谷】片寄西三郎【草野】立澤ハル【高久】矢吹信夫【豐間】鈴木六八、遠藤儀七

互樂會
廿日將棋例會

平將棋互樂會主催の第二十七回月例將棋會は廿日午前九時から市內五丁目吉田屋旅館で開催する、會費一圓

警視廳巡査
受驗者廿五名

銃後帝都を護る警視廳巡査採用試驗は今十六日午前八時から平署會議室に執行されたが受驗希望者多く二十五名の好成績だつた

惡質な抱合せ販賣で
ボーキ關係
取調べ進展
平署で百六十餘名召換

郡山市に本店を置く株式會社ボーキ佐藤商店の惡質な抱合せ販賣事件に關連し同平支店から皆川喜一（三八）外事務員を留置のまゝ帳簿類を押收、縣刑事課から本田警部應援に來平取調べを進めてゐる

同ボーキ商店平支店の取引は石城郡一圓及小野新町、相双二郡に亘り約三百軒に上る模樣で今十六日までに平署に召換參考取調べを受けた取引商店は百六十名を超へ、ボーキ關係の取調べで平署司法室はゴツタ返してゐる

同ボーキ商店は資本金三百萬圓（七千五萬圓拂込）東北切つての大商店で、油類、酒類及必活必需品一切を取扱ひ縣では隱然たる勢力を示してゐる

時局關係で物資不足を逆用し合法的な脫法行爲を繼續抱合せ販賣を行つてゐたが從來これを取締る法無かつた處、國家總動員法の一部改正に依り抱合せ販賣を禁じられ、同店の取引き關係內定中『如何なる商品を抱合せるも異議不申候』と云ふ極單な誓約書を取引商店へ出させ、ビール小麥粉にお茶、傘類と云ふ風に統制品と自由販賣品の抱合せを強要してゐたものである

着任の猪瀨新市長
流石長たる風格
感慨無量の境地で鄕土に入る

平第二代目市長として迎へられた猪瀨乙彥氏は昨十五日午後一時五十七分の汽車で晴れの鄕土入りをした、市からは關場庶務主任が植田驛迄出迎へ、驛には野崎市會議長始め市議清水磐中同窓會長、市內各學校長等多數の名士連が出迎へた、猪瀨市長は海軍大佐とも思へぬ溫和な態度で各方面の人にそれ〴〵の挨拶を交はして用意の自動車で直ちに縣社參拜に出掛けた、市役所に待機してゐた記者團が參拜を終へて市長室に入り、各課長連との對面式の終るのを待ち受けて寫眞をとらして貰つた、先日迄青沼さんの坐つてゐた儘の市長の椅子の側に立つてゐる猪瀨氏は堂々たる長身にモーニング白いチヨツキといふ瀟洒たる服裝、流石に人に長たるの風格を具へてゐる

「椅子に腰をかけて下さい」と注文すると微笑を含んで椅子に腰を下した、市長の椅子が坐り心持の好いか惡いかを味ふのは暫く經つてから、今日は花聟さんのやうに何もかも夢中だらう、誰かが「手を机にあげて下さい」なんていふポーズの注文も出す、パチリ〳〵やるのをにこ〳〵しながらいふ通りの姿勢になつてゐる『一つ市長としての御感想を……』と切り出すと次のやうに語り出した、話をしながらも、はからずも平市長の椅子に坐ることになつて四十年振りで鄕土に歸つて來た不思議な運命に感慨無量といふ樣子であつた

"祖先の名を恥しめぬ"

幼少の折遊んだり學校に通たりしたところの土地に來て見ると一木一草皆自分を喜び迎へてゐるやうに思はれてならぬ、從來は歸つて來ても一週位慌だしい時間しか持てなかつたが今度は四十年振りで足を地につけて落着いて暮らせると思ふと胸中何となく歡喜の情の湧いてくるのをおぼえるものがある今回は再びこの土地に生れ代つた氣分で職務をとらして貰ふつもりである、この土地には兩親の墓もあれば戊辰の戰爭に平城及平町を守るために戰死を遂げた六名の親戚の者の墓もある、自分はこの祖先の名を恥かしめぬやうに平市のため微力を盡くす決心である、此點自分は惡人になれさうもなく善人になれさうな氣がする、市政は始めての經驗であるから今後各方面の意見を好く聞いて漸進的に仕事をやつて行きたいと思つてゐる、從つて現在は市政運用については何も申し上げる限りではない、落着いた樂しい氣持で新興平市及邦家のため出來るだけの努力をささげたいと思ふ

責任は引受ける
"型破り"市長の挨拶

猪瀨市長は既報の如く午後三時吏員一同を議事堂に集めて左の如き新任の挨拶を述べた

私はこれまでに既に死生の巷に立つて生命を失はうとした事が五回ある、しかし死生命ありで今日迄生きながらへてゐる今回の市長は最後の御奉公のつもりで引き受けた、從つて大概の事には驚かぬ、自分は軍人畑に育つて市政の事は好くわからぬ、諸君が自分の職務をなほざりにせぬ限り細かい事はいはぬつもりである小心にして腹は大きくといふ態度でやつてゆきたい。好いと思つたとは敢然としてやつて下さい責任は猪瀨が引受けます

塵埃捨場に◎注意◎
新川へは御法度

平市では先に塵埃捨場を平商業學校手前に設置し塵埃はすべて同個所に投棄すべく隣組を通じ注意したが未だこれが徹底せず公會堂附近の新川堤塘に捨るものあるためこれから天候回復と共に非衞生極まるので今度平署でも發見次第嚴罰主義をとることになり一般市民に注意してゐる

正門變更　小名濱測候所では前面に十五メーター道路が開拓されたので正門を南正面に移轉し從來の西正門は非常口となつた

國碑傳說（1）
龍燈傳說
閼伽井嶽龍燈
龍神から龍燈が獻ぜらる

磐城民俗研究會
石城郡誌資料

この原稿は石城郡誌編纂資料として磐城民俗研究會岩崎敏夫氏の提供されたもの……

閼伽井嶽の上には有名な藥師堂があるが、こゝに每夜の如く龍神から龍燈が獻ぜられると傳へる。大小數十の火光が夏井の海上に起り點々明滅しながら夏井川を遡つて遂に山嶺の龍燈杉の梢に達する深更に及んで堂內に入るといふ。頂上の燕石からよく見えるといふが、信仰心の無い人には見えず又餘り騷げば光は途中で消えて頂には達せぬさうな。水石の項にも記した如く、龍宮の乙姬が難產の折此處の藥師の力によつて無事なるを得たので其の御禮のために龍燈を奉り、又藥師は龍神の御蔭で眼病が癒えたので御禮に水雲を海に下げることになつたのださうである。

龍宮 機織姬傳說

◎御前淵

鮫川の上流川部村御前淵の傍で、山田村大谷の人が木を伐つて居たが誤つて山刀を淵中に落した。そこで水中に入つて見たら。水底には壯麗な御殿があつて織女が機を織つて居るところであつた。家に歸るのも忘れて三日程樂しく此處で過したが、やがて思ひたつて山刀を返して貰ひ村に歸つて見れば、驚いた事にはやあれから三年も月日が經つて居てその日は七夕に當つて居た。この事あつて以來每年七夕の夜には苧を以て機をつくり淵に沈めて祭を行ふこととなつた。又かのきこりは桐の下駄をはきすてゝ置いたといふので同地の人は今に桐の下駄は用ひぬといふ。この傳說の傳承は次のやうにもなつてゐる。

昔爺さんと婆さんと一人の娘とがあつた。爺さんは木こりであつたが或日例の淵で木を伐つて居たら斧を落した。幾度覗いて見ても下は靑黑くよどんだ水があるばかり。ほうと溜息をついて岩の上に呆然とたゝずんでゐたら水の面がぽかりと割れて一匹の大きな鮫が顏を出した。そして爺さんに理由を尋ねた。一時は魂消た爺さんも安心して、一緒に探して上げようといふ鮫に誘はれて水中に入つて見れば立派な御殿があつて、多くの鮫達は門に立つて爺さんの來るのを待つてゐるところであつた。座敷に通されて種々饗應を受けたが、やがて一匹の鮫が金の斧を持つてきて落したのはこれかと問うたが正直な爺はさうではないとことわつた。次には銀の斧を、最後に古ぼけて汚くなつた爺さんの斧を持つて來たところ、それだ〳〵と喜んだので鮫はその正直なのを歡んで金銀の斧をも爺さんに與へた。やがて月日がたつていよ〳〵歸る時、さきの鮫がもとの箇所まで送つて來て別れに臨み、淵中に御殿のある事を人にもらすな貴方の命が無くなるからと念をおした。家へ歸つて見ると何時のまにやら三年の月日は去つて自分の法事をいとなんで居るところであつた人々の驚きは非常なもので寄つてたかつて理由を問ふので鮫に言はれた事もつひ忘れ今迄の話をはじめた。すると話の終らぬ中に急に空が曇つて大雨となり爺さんのみ獨り流されて御前淵の水底に沈んだこゝに出て來る鮫はわにだとも傳へられてゐる。

轉業者修鍊
矢吹道場で講習

縣では來月十日から一ケ月間西白河郡中畑村矢吹原修鍊農場で職業轉換の已むなきに立至つたもの約五十名を集め國民勤勞訓練を行ふことになつたが平國民職業指導所では管內から約十名を募集する なほ資格者は十六才以上五十才迄の男子でその他費用一切は國庫負擔である

△傳染病注意△
今後の暑さに要心

平市月見町三三志賀賓妻タツさん（四二）は十五日發熱診斷の結果腸チフスと決定、直ちに隔離病舍に收容したがこれで平市隔離病舍の入院患者は△赤痢四名△腸チフス四名△計八名であるが水害後もどん天續きの空模樣だつたので比較的傳染病者も發生なかつたが今後急激に暑くなると相當發生する恐れあるので市衞生課では特に喰物に注意するやうにと語つてゐる

麥類集荷
十八日協議會

縣農會並に產組中央會共同主催麥類集荷取扱協議會は十八日午前十時から平市平陽女學校に開く

削節配給
販賣は明日から

平海產物配給所では今十六日削節（鰹）二百箱入荷したので明十七日午前九時から各配給所より配給する 小賣値段は一箱（三十四匁入袋六十ケ）十二圓、一袋二十錢であり買洩れると次回の配給まで購入出來ないことになる

小幡上等兵
今日嚴肅裡に市葬執行

平市新町故小幡桂三上等兵の市葬は今十六日午後一時から市公會堂で嚴肅裡に執行した 小幡上等兵は磐中卒業後東京機械工養成所に入り昭和十二年九月東京電氣川崎工場へ入社、同十四年應召各地に轉戰武勳を樹てたが不幸病ひ弊れ退陣、內地陸軍病院で惜くも戰歿した有爲な靑年である

人命救助
二名表彰

去る七月八日小名濱町定西海岸にて海水浴中の加澤勝義（三三）は水深一丈余の深みに入り將に溺死に瀕したのを小名濱町志賀隆、太田良平の兩名が敢然飛込み救助し人工呼吸を施し蘇生せしめたので人命救助の廉で本縣知事より金一封宛を添へて表彰された

くろがねの妻
世界館で遺家族招待

平市世界館では目下「くろがねの妻」を上映中であるが、この映畫は杉野兵曹の妻を題材に仕組んだもので、すぐる日露戰役に於て光榮の未亡人となり遺兒の敎育に苦心を重ね、それ〳〵立派な海軍將校に仕上げる事が主題となつてをり、現時局下一般の婦人は勿論遺家族の方には是非觀覽させ杉野兵曹長の妻の心持を味はせて銃後の守を固くしたいといふ所から世界館では市內の遺家族に招待券を發行上映中都合の好い日に來て見て貰ふ事になつた

枝豆賣つて
隣組で十圓寄附

市內久保町大館隣組では共同耕作で收護した枝豆賣却金十圓也を市銃後奉公會へ寄附した

文協例會
廿日に延期

磐城文化協會今十六日夜の例會は都合に依つて廿日夜開くことに延期した

吉田班長に
弔慰金送附
千葉の鈴木氏

平市出身千葉縣廳內米穀部員鈴木通夫氏は昨十五日過般の水害により殉職した吉田秀一氏の遺族に對し平警防團を通じ弔慰金五圓を送附して來たので團員も感激今十六日同氏宛禮狀を發送した

颱風去つて
晴天暫く續くか

今十六日久し振りで平地方はカン〳〵照つけ正午の氣溫三十度五分氣溫の高い割合ひに凉風吹き何と無く初秋らしい氣分をそゝつた、あすの第二日曜日もどうやら天候に惠れるので海、山、川何れも久しぶりで行樂の人々で賑ひを豫想されてゐる

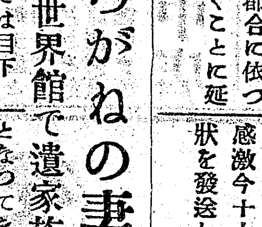
小名濱測候所の發表では低氣壓に變つた颱風が北海道方面に去つたので一時南風が強かつたがこれも大したことなく又高氣壓は太平洋方面に現れたので今の處急激に天候が崩れるやうなこともなく當分この儘よい天候が續くとあり この分だと一時憂慮された水稻なども發育挽回するものと見られる

武術大會
鄕軍聯合の催し

在鄕軍人石城郡聯合分會では明十七日午前八時から次の兩會場で射擊、銃劍術、軍刀術など第十三回武術大會を開催するが時局柄盛會を豫想される

△射擊、神谷村東部實彈射擊場△銃劍術、軍刀術、湯本國民學校構堂

オジラの今晚



（十六日夜の部）

▲六・〇〇（AK）劇「新しい支那の子供」東京兒童放送研究會（HK）（一）お話「お盆の燈籠」中幡義堂（二）聖歌　吉田高女生徒△音のなぞ〳〵（六〇）中野義見△シンブン

▲六・三〇　講演「企業合同の實際」商組中央會指導課長坂田武雄

▲六・五〇　農家の時間

▲七・二〇　ラジオ國民讀本「戰爭と家庭」

▲七・三〇　われらのうた（一）皇軍讚歌（二）銀輪の歌（三）海の若人　BK唱歌隊男聲部

▲七・四〇　吹奏樂　海軍軍樂隊（指揮隊長）內藤清五（一）序曲「海の祭典」（二）幻想曲「西瓜畠」（三）行進曲「國の幸」

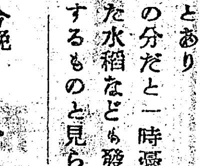
▲八・〇〇　挨拶「聽取者六百萬突破に際して」小森七郎

▲八・〇五　合唱―ラジオの歌發表―（一）放送日本（二）電波の力　日本放送合唱團

▲八・二〇　箏曲と長唄（一）箏曲「六段調」今井慶松、中能島欣一（二）長唄「越後獅子」芳村伊四郎、杵屋佐吉、外

▲八・四五　講談「武士の情」神田伯龍

商況



（十六日）

【鮮魚】小賣値
鰹　二五、〇〇
イワシ　八、〇〇

天氣豫報

今晚　南の風曇りですが一時晴れ模樣です
明日　南の風曇り後風雨模樣
（十七日）
滿潮　前……　後二、二〇
干潮　前六、〇五　後……

洋服裁縫
女子見習10名募集
通勤ヲ可トス　平三電418　佐川洋服店

大塚の―
靴と運動具、樂器
自製靴各種
野球用具
庭球用具
競技用具
卓球用具
登山用具
体育用具
各種運動服裝
ハーモニカ
手風琴
團旗、優勝旗
各種豐富に揃つて居ます
御用は　大塚へ
平市田町銀座　電話七十七番

資金を造る早道は
盤城無盡
貯金を造る早道は

おちの良い
マルミ粉石鹸
平市材木町二
製造元マルミ本舖

運轉手至急募集
高給デ優遇ス
委細面談
希望者ハ左記ヘ申込マレタシ
平市中町十四番地
大和炭礦營業所
電話六〇三番

お盆が參りました
御新盆の佛具は
是非伊東屋へ
特に御遺族の方には御努め致します
伊東屋家具店
平郵便局前

いよ〳〵佐渡行き迫る
期日　明十七日午前六時平驛發、三泊四日
會費　卅八圓五十錢
【此の際至急御參加御申込み願ひます】
申込所　平市三田小路　電話一六七番　一の井方